2022年度京都大学微分積分学(演義)A(中安淳担当)第 5 回(2022年 6月 15日)問題と宿題(2022年 6月 21日締め切り)

学籍番号: 氏名: 評価:

- 問題 1 ---

次の関数にテイラーの定理を適用し、 x^4 の項までの有限マクローリン展開を剰余項付きで答えよ。

- $(1) \cosh x$.
- (2) e^{x^2} .

2022 年度京都大学微分積分学(演義) A (中安淳担当)第 5 回 (2022 年 6 月 15 日) 問題と宿題(2022 年 6 月 21 日締め切り)

学籍番号: 氏名: 評価:

- 問題 2 -

 $\sin x$ の漸近展開を用いて、次の極限の値を計算せよ。

$$\lim_{x\to 0} \left(\frac{1}{\sin^2 x} - \frac{1}{x^2}\right).$$

2022年度京都大学微分積分学(演義)A(中安淳担当)第5回(2022年6月15日)問題と宿題(2022年6月21日締め切り)

学籍番号: 氏名: 評価:

- 宿題 3 -

 $n=0,1,2,3,\cdots$ に対して、関数

$$P_n(x) = \frac{1}{2^n n!} \frac{d^n}{dx^n} ((x^2 - 1)^n)$$

を定義すると $P_n(x)$ は n 次の多項式である。この時、以下の問いに答えよ。

- (1) $P_1(x)$, $P_2(x)$, $P_3(x)$ を計算せよ。
- (2) $y = (x^2 1)^n$ とおくと、 $(x^2 1)y' = 2nxy$ が成り立つことを示せ。
- (3) (2) の等式を n+1 回微分することで、次の等式が成り立つことを示せ。

$$-(x^2 - 1)P_n''(x) - 2xP_n'(x) + n(n+1)P_n(x) = 0.$$

2022 年度京都大学微分積分学(演義) A (中安淳担当)第 5 回 (2022 年 6 月 15 日) 問題と宿題(2022 年 6 月 21 日締め切り)

学籍番号: 氏名: 評価:

- 宿題 4 -

 $e^\pi > 23$ を示せ。ここで、e はネピアの定数、 π は円周率であり、 $3.14 < \pi < 3.15$ は認めてよい。電卓は有理数の四則演算に限って使ってよいこととする。ヒント: $e^\pi = e^3 e^{\pi - 3}$ と考える。